

第3回 仙台市食育推進会議 会議録

開催日時	平成30年2月9日(水) 15:00~17:00
開催場所	仙台市役所本庁舎2階 第六委員会室
名簿	委員 高澤まき子(会長)、熊谷和裕、相澤かず子、蘆澤義章、亀山季代子、齋藤浩美、柴崎浩一、白川愛子、菅原哲平、原田美和、渡辺淳子、佐々木洋 福田洋之、石川浩史、大越裕光 (欠席委員=青沼清一、小島芳、中野俊昭、平間正浩、南文子)
	事務局 櫻井消費生活センター所長、村上健康福祉局次長、石澤保健衛生部長、小林健康政策課長、山本生活衛生課長、山田子供保健福祉課長、高橋廃棄物企画課長、横山農林部長(委員代理)、嶋田農食ビジネス推進室長(代理出席)、山田中央卸売市場業務課長、戸井田太白区衛生課長、庄子泉区家庭健康課長、木村教育局総務企画部長(委員代理)、清水教育局総務企画部参事兼健康教育課長、健康増進係長(司会進行)

発言者等	発言内容
司会	<p>&lt;1. 開会&gt;            定刻になりましたので、ただいまより平成29年度第3回仙台市食育推進会議を開催いたします。            初めに、本会議を代表いたしまして、高澤会長よりご挨拶を頂戴したいと思います。</p>
高澤会長	<p>皆様、こんにちは。お忙しい中、お集まりいただきましてまことにありがとうございます。</p> <p>ことしの冬は天候不順で大雪に見舞われているという、特に北陸地域などは大雪に見舞われまして、野菜の高騰が続いているという状況でございます。そしてまた、白菜泥棒が出るというニュースなんかも出ているようでございますけれども、そしてまた宮城県といえば、ついこの間、蔵王の火山性微動が続いて警戒レベルまで上がったということもございましたので、食料の確保などの危機管理もしていかなければいけないのかなと思っているところでございます。</p> <p>そしてまた、主要農作物種子法が平成30年4月から廃止となることから、今後は外国から遺伝子組み換え作物がますます日本に入ってくるのではないかと思っているところであります。そして次代を担う子供たちの食料はどうなっていくのかなということも、ちょっと危惧しているところでございます。</p> <p>私たちは遺伝子組み換えそのものの作物を食べているわけではないのですけれども、加工品として、糖や、油、しょうゆ、みそ、納豆など、さまざまな形で実は私たちの体の中に入っているというような状況にあります。さらにそれがふえてくるのではないかと思っているところでございます。</p> <p>実は私、品種審査委員として来週委員会がございまして、主要農作物種子法が廃止になりますと、それぞれの地域で種を育てていきなさいということが義務ではなくなるということになるわけでございます。民間に種は任せなさいということになるわけですから、将来的にどうなるのかなと思っているところでございます。</p>

	<p>今回はパブリックコメントを受けまして、仙台市食育推進計画後期計画最終案の協議ということと、今年度皆様が実施されました状況報告をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。</p>
司会	<p>ありがとうございました。</p> <p>ここで、議事に先立ちまして、本日の会議の成立についてお知らせいたします。</p> <p>本日は、青沼委員、小島委員、中野委員、平間委員、南委員から欠席の連絡をいただいております。また、白川委員がおくれて参加されると伺っております。過半数の出席となっておりますので、仙台市食育推進会議条例第7条の規定により本会議は成立しておりますことをご報告いたします。</p> <p>なお、本日は仙台市経済局長の代理として横山農林部長が、また仙台市教育長の代理として木村総務企画部長が出席しております。その他、本日出席しております事務局側の本市職員につきましては、お手元に出席者名簿をお配りしておりますので、ごらんください。どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>それでは、これからの進行につきましては、会長にお願ひしたいと存じます。高澤会長、よろしくお願ひいたします。</p>
高澤会長	<p><b>&lt; 2. 議事 &gt;</b></p> <p>それでは、委員の皆様どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>議題に移ります前に、まず議事録署名人につきまして私のほうから指名させていただきますのでよろしいでしょうか。</p> <p>それでは、本日の議事録署名につきましては、原田委員にお願ひしたいと思います。よろしくお願ひいたします。</p> <p>それでは、議事に移らせていただきます。</p> <p><b>議題（1）「仙台市食育推進計画（第2期）後期計画最終案について</b></p> <p>議事1番目、仙台市食育推進計画（第2期）後期計画最終案についてでございます。</p> <p>今年度策定を進めております後期計画につきましては、前回、10月の第2回食育推進会議で中間案についてご協議いただきましたが、さらにその後、11月から12月にかけて市民の方々からのご意見を頂戴いたしました。そのご意見を受けまして、本日最終案としてご提案いただいておりますので、ご協議してまいりたいと思います。</p> <p>それでは、まず市民意見聴取の概要、続きまして最終案について事務局からご説明をお願ひいたします。</p>
健康政策課長	<p>健康政策課の小林です。着座にて説明いたします。</p> <p>資料1をごらんください。</p> <p>今回の後期計画中間案に関する市民意見の聴取結果についてでございます。</p> <p>意見聴取の結果でございますが、聴取期間は11月24日から12月22日までで、寄せられましたご意見は15件となっております。</p> <p>2のところ項目、意見の内訳を表にしております。具体的な取り組みに関するものが最も多く、7件と半数以上を占めております。</p> <p>次に、寄せられました意見の概要と本市の考え方について、その案を説明いたします。</p> <p>全体についてのご意見はございませんでした。</p>

2、推進の基本に関するご意見でございます。この表の下のところになりますけれども、推進の視点と主体について、各関係機関の期待される役割について、仙台市の役割に関して明記してほしいというご意見がございました。こちらは最終案のほうで加筆しております。

ページをおめくりください。

3、後期計画における方向性に関するご意見です。

3-1は、ひとり暮らし世帯や高齢世帯がふえる中、低栄養が懸念されますことから、地域での高齢者の健全な食生活を支える体制づくりについて、中間案の課題に盛り込んでほしいとのご意見です。最終案では、高齢者の低栄養予防について加筆しております。

3-2は、食品ロス削減の観点から、物の大切さや生産、流通も含め、食品ロスに関する取り組みの重要性についてのご意見をいただきました。

4についてのご意見はございませんで、5、市民のライフステージごとの取り組み目標についてでございます。

5-1では青年期、壮年期に向けてのアプローチは難しいけれども、今後の重要な課題になるとのご意見です。大学や事業者などの関係機関との連携を進め、健康づくり対策と連動し、推進してまいりたいと考えております。

次に、6、具体的な取り組みに対するご意見です。

6-1は、食育サポーターなどの地域での活動グループが、食育の取り組みの周知に貢献するものであり、財政支援検討についてご意見をいただいております。考え方としましては、食にかかわる関係機関や行政、地域で活動する市民の方々の連携、協働は重要であると考えておりますことから、今後の取り組みの参考とさせていただきたいと思っております。

次のページ、6-2でございます。国の食育推進に向けた目標や多様な暮らしに対応した食育推進の体制整備としまして、地域や教育現場に管理栄養士の配置をとのご意見でございます。考え方としまして、現在保健福祉センターや大学、栄養士会、地域で活動する栄養士のほか、保育現場や教育現場など、さまざまな場で活動する栄養士が、市民のさまざまな年代の方々に対して専門性を生かした食育に取り組んでいるところではございます。今後の取り組みの参考とさせていただきたいと思っております。

6-3、食事バランスガイド、食育推進の重要性の発信についてのご意見でございます。こちらにも参考にしてまいりたいと思っております。

6-4から6につきましては、地産地消を進めようについてのご意見で、地産地消サポーターと食育サポーターの違いが理解できるように記載してほしいというご意見や、農作業の体験により、その大変さと収穫の喜びを味わう大事さについて、地場産食材や農漁業についての情報発信の展開などについて、地域密着の食品販売業者も明記してほしいというご意見です。それぞれ最終案に反映したところでございます。

6-7は遺伝子組み換え商品についての理解を深めるようにとのご意見で、こちらにつきましては、遺伝子組み換え食品を含め、食品の安全性に関してわかりやすい情報提供に努めてまいります。

ページをおめくりください。7は、推進に当たっての指標についてのご意見です。

7-1、食育サポーターの登録数に関しての評価がされていないというご指摘をいただきました。また、サポーター登録数も含めて、増加という目標値から、数値の表現についてのご意見でした。目標値について、数値化することが可能であるか再度検討しまして、新たな指標である地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法などを受け継いでいる人の割合につきました

て、新たに数値目標を設定いたしました。

8、その他の項目では、8-1(1)国でも食育を消費者教育として位置づけており、市の計画においても消費者教育としての食育の文言を加えるというご意見をいただいております。本市におきましても、消費者教育として食育の推進を位置づけているところをございまして、今後の各種計画とこの食育推進計画を連携しながら、食育の取り組みを効果的に推進してまいりたいと考えております。

8-2は、食育に感心のある人の割合の目標値について、現状にそぐわないのではないかというご意見と、この目標値を上げるために、子育て世代をターゲットにした取り組みをとのご意見でございます。今回、目標値の考え方として、食育に関心があるという指標の考え方ですけれども、国の指標では「食育に関心がある」と「どちらかと言えば食育に関心がある」という合計の指標となっておりますことから、本市におきましてもこれまでの「食育に関心がある」という人に加えて、「どちらかといえは関心がある」という方の数字も含めて指標を捉えることにし、目標値も変更しているところがございます。また、子育て世代をターゲットにしたという取り組みについてもすすめていきたいと思っております。市民意見につきましては、以上でございます。

これらの市民意見を踏まえまして、後期計画の最終案を作成いたしましたのでご説明をいたします。

資料2は、今回の最終案で変更したところについて、変更前と変更後を一覧にしたところがございます。また、資料3はその変更点を踏まえまして、最終案としてまとめたものがございます。こちら、両方をあわせてごらんいただきたいと思っております。

まず、最終案を見ていただきたいと思っております。3ページの7行目からですけれども、ここの書き振りを今回変更しております。本市も食育推進の主体の一つとして、各関係機関、団体の皆様と連携、協働しながら食育の推進を諮っていくというような趣旨に加筆をしているところがございます。

次に、5ページでございます。

5ページの①、6行目以降に、高齢者の低栄養予防につきまして新たに加筆いたしました。ここの2行、「一方、80歳以上においても」というところで、2行を加筆しております。

次に、9ページをごらんください。

主な内容の一番上のところがございますが、食育サポーターのところを修正加筆しているところがございます。星印のところ、食育サポーターにしまして、「(食育活動に取り組む市民グループや団体等)」と加筆しております。その下の黒丸のところも、「自主的に食育に取り組む市民の育成と活動支援」と表現を修正しております。

次に、13ページでございます。

こちら、主な内容の2段目のところがございます。黒丸の4つ目のところに、地産地消サポーターの説明を加筆いたしております。具体的に「生産者、小売店、飲食店等」といったところも含めて加筆したところがございます。

次に、16ページ、17ページの指標のところがございます。こちらは、指標の下から5番目のところ、「新」となっているのですけれども、「地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を受け継いでいる人の割合」の目標値を60%以上ということで最終案のほうで設定いたしました。こちらは、17ページの備考の欄を見ていただきたいと思っておりますけれども、農林水産省「食

	<p>育に関する意識調査」の全国値と合わせまして60%と変更しております。</p> <p>次に、20ページでございます。</p> <p>こちらは評価の部分でございますが、こちらの20ページの一番下のところに食育サポーターの取り組みにつきまして、評価として取り組みを加筆したところでございます。</p> <p>次に、24ページをごらんいただきたいと思っております。</p> <p>二つ目のダイヤのところでございます。「食育サポーター（団体・個人）の登録数が減少」、こちらの項目を食育サポーターの取り組みについて、新たに詳しく加筆をしております。</p> <p>最終案の変更点、加筆した部分については以上でございます。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。市民の方々からのコメントを頂戴し、かなり内容的には充実したのではないかと考えております。</p> <p>それでは、ただいまご説明をいただきました最終案につきまして、皆様からご意見を頂戴したいと思っております。何かご意見ございませんでしょうか。</p> <p>私のほうからちょっと細かいのですけれども、ライフステージ別の項があったかと思っております。7ページになります、「市民のライフステージごとの取り組み目標」ということで、「乳幼児期」「学齢期」「青年期」「壮年期」「高齢期」と分かれておりますけれども、「青年期」というのは具体的に年齢からすると、15歳から二十四、五歳ぐらいまででしょうか。そして、「壮年期」となりますと、25歳から大体四十四、五歳かなと思うのですが、一気に「高齢期」に飛んでいるのですけれども、壮年期は60歳までと考えてよろしかったでしょうか。</p>
健康政策課長	「高齢期」を65歳からと。
高澤会長	そうすると、壮年期はその前までの年齢層と考えてよろしいですか。
健康政策課長	そうですね。「学齢期」は17歳までと考えておりまして、「青年期」がおおむね18歳から39歳、「壮年期」はおおむね40歳から64歳と考えております。
高澤会長	<p>わかりました。</p> <p>それから、先ほど24ページの推進に当たっての指標の達成状況ということで、お話がありました「食育サポーターの登録数が減少」についてですが、これが非常に課題だということですが、今後ふやしていくにはどういう工夫が必要なのかと、私のほうで思案していたところです。何か、もしこんな工夫を考えていますというところがございましたらお聞かせください。</p>
健康政策課長	<p>ここは最終案のところで大きく修正を加えたというところもございまして、積極的に掘り起こしを図りたいと考えております。</p> <p>やはり若い方への食育に関する発信というのが重要だと思っておりますので、学生の食育サークルですとか、そういった若い年代の方々にも登録いただけるように、いろんな食育活動を通して、既に連携をしているところもありますので、そういった方の情報を収集して、積極的に登録なり参加を呼びかけていきたいと思っております。あとは、研修会や交流会なども各種ございますので、そういった機会などを活用していきたいと思っております。</p>

高澤会長	ありがとうございます。 では、どうぞ、亀山委員。
亀山委員	今の食育サポーターなんですけれども、私も今回これを見ていて、団体でしか登録できないと思い込んでいて、もしかして県のほうとごっちゃになったのかもしれないのですけれども、個人でもできるんだと思い、では登録ってどうやればいいのかと思って検索をすると、「仙台市 食育サポーター登録」とやっても、検索できないのです。この食育推進会議の中で書いている食育サポーターというところはぱっと出てくるのですけれども、どこから登録すればいいのかというのが、すぐ探せなかったのです。私の探し方がもちろんだめだったのだと思うのですけれども、ただ登録がもうちょっと簡単にできるといいのではないかと思ったので、検索したときにすぐヒットするといいなと思いました。
健康政策課長	ありがとうございます。今ご指摘のように、食育推進隊で登録しているので、食育サポーターだとうまくヒットしなかったのかもしれませんが。
亀山委員	私も今ここでもう1回見ていて、「あっ、食育推進隊だったんだ」と思ったのですが、そこがもしかしたらホームページに、「食育推進隊（食育サポーター）」とか入っていれば、もしかしたらヒットするのかなと思いました。
健康政策課長	はい。ちょっと工夫したいと思います。ありがとうございます。
高澤会長	では、渡辺委員、お願いします。
渡辺委員	県生協連、渡辺でございます。 5ページの加筆された部分です。「80歳以上においても、バランスのよい食事を」という2行の加筆部分なのですけれども、これは高齢者に対する食育の課題と位置づけて、加筆されたと思うのですが、実際の基本目標と推進の柱のところ、重要課題であると言い切っているのに出るこないというか、目標と推進の柱に出るこないというのは、どのようなことかなという質問でございます。 あと、国の第3次食育推進基本計画の中でも、高齢化に伴って健康寿命の延伸につながる食育の推進が重要課題となっていることもありますし、そこら辺の課題と目標との整合性というのをもう少し図っていただく計画になったらいいんじゃないのかなと思っております。 ライフステージごとの取り組みの目標として、高齢期のところにどういう形の取り組みなのかということも含めて、もう少し突っ込んだ目標の記述でもよろしいのではないかと思います。 あと、もう1点ですけれども、食育サポーターの件では、やはり前回の中間案のところでも減少しています。今回の後期の計画の中でも、34年まで増加ということで、継続した目標値の設定をしているのに、今おっしゃられたその推進の中身では、本当に増加するのかということ懸念しております。先ほど亀山委員がおっしゃった、市のホームページをもう少し充実させるとか、あとは広報をもっと強めるという取り組みを、もう少し強化したらいいのではないかと思います。 以上でございます。

高澤会長	<p>では、課長、よろしくお願いいたします。3点ですね。高齢者の食にかかわる重要な課題というところと、それからライフステージ別の取り組みをもうちょっと具体的にさせていただきたいということと、それから先ほどの食育サポーターの取り組み、増加するためにはという3点だったかと思います。よろしくお願いいたします。</p>
健康政策課長	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>高齢期の食の取り組みの課題のところにつきましては、推進の柱としては、①の食を通じた健康づくりを実践しようというところに含まれて、その中で取り組みとなるわけなのですが、この計画と同時に第2期いきいき市民健康プランの後期計画も策定しておりまして、そちらの健康づくりの部分でも、高齢者の低栄養予防につきましては、具体的に取り組むというような方針を打ち出しているところがございます。フレイルという考え方とあわせて、食や運動のことも含めて、色々な高齢者の健康づくりですとか、介護予防教室ですとか、介護保険事業とかと一緒に取り組んでいくということを盛り込んでいるところです。</p> <p>食育の計画としましては、具体的などころとなりますと、11ページの表の一番上のところです。主な取り組みということで、町内会ですとか、老人クラブとか、社協とかと連携をいたしまして、対象者に応じて、高齢者の方の団体であれば、高齢者の低栄養予防とかというところを、健康教育などでの啓発に取り組んでいきたいと思っているところがございます。</p> <p>2点目の食育サポーターのところでございますが、前のこの会議でも話題にはなり、ご意見をいただいていたところです。今回、非常に数が少なくなってしまっているところもありまして、ここはちょっと奮起してふやしていきたいと思っておりますが、先ほどのご意見のようにサポーターを新規に登録していただくという啓発のほか、食育サポーターの方々の交流会ですとか、研修会ですとか、そういった活動を発表する場をつくったり、その発表の様子などの発信も少し工夫をして、市民の方々にその活動をお知らせしていけたらと思っているところがございます。</p> <p>数値目標のほうも、もう1回検討はしたところなのですが、やはり減っているところからの目標数を出すというところは、なかなか難しいかなと思っているところです。</p>
高澤会長	<p>渡辺委員、よろしいでしょうか。よろしくお願いいたします。</p>
渡辺委員	<p>高齢者のところです。具体的な計画ということで、11ページの上のほうにそれに当てはまるのだというお話でしたけれども、そもそも高齢者への働きかけが、働き盛り世代への積極的な啓発と健康調査の機会をふやすという項目のところにはマッチするのかなと思いましたが、これは別立てで入れ込むのがいいんじゃないのかしらと改めて思いました。そこら辺検討していただきたいなと思います。</p>
高澤会長	<p>いかがでしょうか。別枠で入れ込むという形でございますけれども。</p>
健康政策課長	<p>どういう形で盛り込んだらいいかといったところも含めまして、ちょっと検討させていただきたいと思っております。</p>
高澤会長	<p>よろしくお願いいたします。</p>

	ほかに、ご意見ございますでしょうか。亀山委員、よろしく申し上げます。
亀山委員	<p>ほかで言ったほうがいいのかなど思っていたのですが、情報発信のところ で私事なのですが、うちの父が認知症予防の勉強会で健康増進センターに行 ったときに、自分の行動の見える化みたいな形で、ご飯をちゃんと食べたど か、交流している、運動というのを、チェックシートみたいなのをもらっ てきてつけていたのです。それで、見える化っていいなと思っていたら、やっ ぱりちょっと外に出て人と交流するのが少ないと自分でも思ったみたいで、 行動が変わってきたので、こういうチェックシートっていいんだな、見える 化っていいんだなと思ったのです。こちらでいろいろ計画しているようなも のだと、参加しないともらえないというのがあるので、もちろん大変なこと だと思ってしまうのですが、市政だよりというのは私の感覚からいうと、すぐく市民 の方に浸透しているような気がするので、紙面を割くのは本当に大変なんだ と思うのですけれども、ああいうものに食品チェックシートみたいなものど かもつけられるのであれば、自分で申し込んで参加するところまで行けなく ても、ちょっとそういう自分の行動を省みるような形のことのできるのかな と思いました。新たにつくってここに置いておきますというより、市政だよ りにそういうのがもし入れられるのであれば、そういうことも一つなのかな と思ったりはしていました。</p>
健康政策課長	<p>ありがとうございます。 これまでも食育月間とか、そういった機会を捉えて啓発の工夫をしてきた ところがございますので、市政だより、特に高齢者の方はよく見てくださる という状況でございますので、何か発信できるような工夫を考えられたらい いかなと思っております。</p>
高澤会長	<p>よろしくお願いたします。 そのほかございますでしょうか。熊谷委員、よろしく申し上げます。</p>
熊谷委員	<p>一つだけ、数字のことなのですが、今ご説明があったのでわかった のですが、この資料だけを見ますと、食育に関心がある人の割合が 16 ページの表と 24 ページで、その数字の違いがあって、関心がある人の割合と、 それからどちらかと言えば関心がある人の割合を足したものと足さなかつた ものの違いというのは、説明を受けると非常にわかるのですが、ただ 24 ペ ージと 16 ページを見た場合に、数字が何でこんなに違うのだというのが第一印 象で、なおかつ目標が 70 なのか 85 なのかというようなのも、この表だけ見 るとわかりにくく、上の説明を読んでもいま一つわかりませんでした。下の 数字は合っているわけで、一番最初に多分見るであろう食育に関心がある人 の割合は、今お話の中では、資料 1 のところで説明があったので我々はわか ったのですが、資料だけ見た方がわかるように、この数値が違うわけ の説明がもう一つ何かあるといいかなと思いました。</p>
高澤会長	<p>数値上に違いがあるということでございますので、その数値の説明を欄外 などに説明書きがあるといいのかなと思っております。よろしくお願いた します。 そのほか、ございますでしょうか。 先ほど何度も食育サポーターのお話が出てまいりましたけれども、もうち よっと具体的に、食育サポーターというのはどんなことをするのかというこ</p>

	とのご説明をいただければと思います。よろしくお願いいたします。
健康政策課長	<p>食育サポーターは、食を通して色々な健康づくりや地産地消などをみずから実践するということと、あと体験や学習の機会を市民の方々に提供する活動を行っているというような活動をしている食育活動グループ、あるいは個人の方と位置づけております。</p> <p>具体的な活動で、これまで取り組んでいる方も含めてなのですけれども、子供の食事について色々な啓発をしたり、講座を行ったりとか、あとは生活習慣病予防についての食に関する活動や地域での共食の取り組み、郷土食の普及活動、地産地消の推進など、いろいろ地域の中で多岐にわたった活動なので、広く色々な食にかかわる活動をされていらっしゃる方と考えております。</p> <p>仙台市の登録事業としては、仙台食育推進隊という形で登録していただいて、その活動をホームページにアップしたり、食育月間行事などで市民の方々へ情報発信をするなどの取り組みをすすめているところでございます。</p> <p>また、市民の方がホームページなどをごらんになって、そういったグループに入りたいというようなお声があったりとか、講師をお願いしたいという依頼などもお問い合わせいただいているところでございます。</p>
高澤会長	食育サポーター、イコール、仙台市食育推進隊ですか。仙台市地産地消サポーター、これも一緒でございますか。また別のものもございますか。
農林部長	<p>農林部、横山です。</p> <p>地産地消サポーターといいますのは、私ども経済局農林部でやっている事業でございまして、これは一般の市民の方ですとか、生産者、飲食店の方などに登録いただいているのですけれども、その名のおり地場産品への理解を深めるためにやっているもので、主に一般市民で登録していただいた方などを対象にしております。具体的には後ほど説明しようと思っていたのですが、資料4に若干説明があるのですが、資料4の32ページの2番に地産地消推進サポーター事業というのがありまして、一般登録していただいたサポーターの方に、実際に畑での播種の体験ですとか、収穫の体験などをしていただいで理解を深めるといったような事業を年に何回かやっているところでございます。ということで、食育サポーターとは実施している部署も中身も、目的は近いけれども違うところでやっているというところでございます。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>齋藤委員、よろしくお願いいたします。</p>
齋藤委員	<p>先ほど亀山委員がおっしゃったことと、またちょっと関連があると思うのですけれども、例えば基本の目標であるとか、推進の柱であるとか、このようなものを簡単にまとめたパンフレットのような、冊子のようなものは、市民の手元に届いたりするのかなと思っていました。先ほど市政だよりの活用ということもございましたので、ああいうものに折り込まれてきたりして、そこに先ほど委員がおっしゃったようなチェックシートのようなものがありますと、例えばそういうものを冷蔵庫なり何なりに張って、実際この取り組みの具体的な目標ではないかもしれませんが、乳幼児期なり学齢期なりの取り組みなど、一つ一つご家庭の皆様方に浸透させることもできるのかなと思っておりました。大変いい内容になっておりますので、縮刷版</p>

	<p>のような、見てすぐわかるような形のカラー版の、何かそういうものを発行されるようなご計画などは今後あるのかなと思って、お尋ねしたいと思います。</p>
健康政策課長	<p>まず、この食育推進計画第2期の後期計画については、きょうの資料3は全体版になりますけれども、このほかこの内容をコンパクトにした概要版というものもつくる予定でございまして、最終計画の全体版よりも部数を多く考えてございます。</p> <p>また市民の方々がご家庭で食に関することや、健康づくりに関することを実践される際に参考になるような資料などは、これまで健康教育などの際に作成している啓発媒体がございまして、そういった内容からさらに実際に取り入れやすいようなものを使っていきたいと思っております。ご意見ありがとうございます。</p>
高澤会長	<p>では、菅原委員。</p>
菅原委員	<p>みやぎ環境とくらし・ネットワークの菅原です。</p> <p>先ほど出てきました地産地消サポーターなんですけれども、参考までに情報があればなのですが、こちらはサポーター自体は増加しているのですか、減少しているのですか。</p>
農林部長	<p>きょう、農食ビジネス推進室長が来ておりますので、そちらからお答えさせていただきます。</p>
農食ビジネス推進室長	<p>農食ビジネス推進室長の嶋田と申します。</p> <p>サポーターについては、登録数については、ここ数年横ばいの状態が続いているかなと見ております。大体一般市民の方で250名ぐらい。小売店なども含めると400件ぐらいの登録だったかと思っております。</p>
高澤会長	<p>よろしいでしょうか。ありがとうございました。</p> <p>そのほか、ございませんでしたか。</p>
農食ビジネス推進室長	<p>詳細な登録数が資料のほうにございましたので、念のため申し上げます。資料4の31ページに最新の情報がございまして、合計で512件の登録ということで、消費者の方がそのうち279名という状態でございます。</p>
菅原委員	<p>ありがとうございます。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、ほかにご意見がないようでしたら、本日のご意見をもとに最終的な文言、表現等は私と事務局とで調整させていただきまして、計画の策定をさせていただきたいと思っておりますが、そのような取り扱いでよろしいでしょうか。はい。ご承認いただき、ありがとうございました。</p> <p>それでは、次の議題に移らせていただきます。</p> <p><b>議題（2）平成29年度食育推進事業実施状況について</b></p> <p>議事の（2）でございます。平成29年度食育推進事業実施状況でございます。「食べる力をみんなでアップ！」の基本目標に、四つの推進の柱をもとに</p>

	<p>連携を図りながら取り組みを進めているところと思います。</p> <p>まず、資料4に基づきまして、平成29年12月末までの状況を各委員の皆様からご報告いただきまして情報共有を図り、その後意見交換を行ってまいりたいと思います。</p> <p>新規事業、拡充事業などを中心に、お一人当たり二、三事業ほどをピックアップしていただきまして、ご報告をお願いいたします。また、ご発言はお一人2分程度を目安に、また資料の記載ページもあわせてお話しいただきたいと思います。よろしくをお願いいたします。</p> <p>それでは、私のほうから指名させていただいてよろしいでしょうか。</p> <p>では、活動の分野ごとにご報告いただきたいと思います。</p> <p>初めに、子供たちやその保護者を対象とした食育活動としまして、仙台市小学校長会の熊谷委員からご報告をいただきたいと思います。</p>
熊谷委員	<p>では、資料の6ページと7ページのところでお話をしたいと思います。</p> <p>特に新しい事業ではございませんけれども、6ページの給食週間についてですが、1月にほとんど全部の小学校で取り組んでいる行事で、ことしの場合は伊達武将隊に来ていただくイベントが二つの学校でありました。南吉成学校給食センターの学校である根白石小学校と自校で給食をつくる向山小学校に、この武将隊の方を招いて、それぞれ郷土料理について説明を武将隊のほうからしていただきました。食育を兼ねた学習をして、一緒に給食を食べてもらおうというようなことで、子供たちは大喜びで、特に特別支援学級の子供たちの中には給食がなかなか食べられない子も何人かいたのですけれども、政宗さんに言われると、残さずその日は食べたという、本当に効果てきめんだったなと思いながら見ておりました。各校でもいろいろ子供たちの自主的な活動を入れながら、食育推進ということで毎年ここが一番のメインで取り扱っている給食週間という行事でございます。</p> <p>それから、7ページには食育の実践研究ということで、毎年学校給食研究大会という県大会を行っているのですが、今年度はちょうど仙台市が運営する番で、生涯学習支援センターを会場にしまして、200名参加で、授業の様子をビデオで見て研究発表があったり、ポスターセッションがあったりというようなことでいろいろ取り組みました。講演には手作り弁当の日を提唱している竹下和男先生を招いての講演、それから授業は、柊江小学校の6年生の授業でインスタント食品は積極的に取り入れるべきかどうかというのを賛成派と反対派に役割を分けて議論するという内容でした。賛成派だった子も20分後には反対派になって、今度反対派の立場で意見を述べ合うというような役割分担を変えての授業で、大変興味深く見ました。子供たちの最後の感想というか、子供がこの後実践するところまで何とか持っていきたいという授業だったのですが、感想は何人か書いてくれたものの発表があり、「やはりインスタント食品だけだと栄養バランスが偏ってしまうので、インスタントものと何か栄養のあるものを一緒に食べたほうがよいのかなと思った」「時間がないときやどうしてもお腹がすいたときにインスタント食品は食べます。でも、これからは野菜と一緒に食べるようにします」とか「インスタント食品は多く使うのではなく、必要なときだけ使うのがいいと思いました」という内容でした。これは、その前に授業中で栄養教諭が食べ続けるとどうなるかという心配のところを教えましたので、そういう感想になったのかなと思います。でも、例えば「家の人がいなときは食べます」というような意見があったり、インスタントラーメンにもこれからは野菜を入れてバランスよく食べたいという感想があって、実りの多い授業だったかなと思っています。</p>

	<p>こういったような発表が数多くあって、なかなかよかったかなという大会でございました。以上でございます。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。内容的に非常に楽しい授業だったなと感じました。</p> <p>それでは、次に保育所連合会の原田委員、よろしくお願いします。</p>
原田委員	<p>9ページをごらんください。</p> <p>仙台市保育所連合会の主な取り組みとしては、平成29年度は和食のよさを知り、和食をもっと食べようということテーマとして研究してまいりました。子供や家庭の保護者に具体的な和食の献立やだしについて知らせ、和食を意識した食事づくりを推進してまいりました。具体的には給食の献立に和食の日を設けて和食に親しんでもらい、和食の味つけや食事のマナー、郷土料理について子供たちに話をしたり、給食だよりに和食についての一コマを掲載いたしました。また、5歳児にはだしの味比べの活動を行いました。</p> <p>活動成果については、現在取りまとめているところでございます。また、あわせて入園児童の家庭に向けて、「みんな大好き和食レシピ集」というものを作成し、和食メニューを保護者の方により取り入れてもらえるような啓発活動に取り組んでいて、やっとう仕上がりまして、今各園に行き渡っているところで、今後保護者に渡る予定になっております。</p> <p>そして、栄養士の研修においては、毎年栄養士の資質向上のための研修会を実施しているところでありまして、今年度は食物アレルギーの食事と保育所での対応というテーマで講話を受けました。食物アレルギーの最新の情報や診療方法について専門的な立場からの内容を学ぶことができましたし、栄養士自身が正しい知識を身につけて、保育所での食物アレルギー対応、特に安全・安心な除去食や代替え食の提供のために生かしているところでございます。</p> <p>それから、給食担当者の研修会については、保育園での給食は子供の嗜好や味覚形成に大切な役割を担うと捉えておりまして、調理研修では子供が薄味でもおいしく感じられる献立や工夫を学ぶために、薄味でおいしい子供の食事をテーマに調理実習を実施いたしました。食材の持ち味を生かしながら、彩りを考えた盛りつけや薄味でもおいしく感じることのできる調理方法を実習いたしました。乳幼児期の味覚の形成や健康づくりにつなげていくように、研修で学んだことを各保育所で給食に取り入れるなど活用しているところでございます。以上です。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。やっぱり小さいころからの食経験というのは、非常に重要なところでございまして、すばらしい事業だったなと思っております。</p> <p>それでは、続きましてPTA協議会の蘆澤委員、よろしくお願いいたします。</p>
蘆澤委員	<p>仙台市PTA協議会としては、例年と同様の行事を行ってきました。加えて、8月25日、26日に仙台で開催されましたPTA全国大会に参加してまいりました。各分科会が10以上、そして全体会という感じでありましたが、第8分科会というところでは、研究課題が「子どもたちの健康な心と身体を育む食を求めて」ということで、いろいろ講演だったり、あとは実践発表、あとはパネルディスカッションが行われました。内容としましては家庭における「子供のこしょく」という部分で、「こしょく」といってもいろんな「こ</p>

	<p>がつく食という漢字を書きますけれども、七つほどありました。その中でも、食事は成長途上にある子供たちにとって、人格形成においても非常に重要な働きをされると言われています。お腹を満たすだけでは不十分で、栄養のバランスを整え、さまざまな食体験を、食事に関するマナーなどを教えていながら、食育を意識した食事が不可欠と考えております。PTAとしまして、地産地消を主とした食材の活用や、あと郷土料理を使ったバランスのとれた食事を子供たちに伝え、安全で豊かな食文化を継承という形で伝えておりました。</p> <p>それで、先ほども言いましたとおり、七つの「こしょく」なのですけれども、まず一つ目は子供1人だけで食べる食事、これが「孤食」です。二つ目が、家族と一緒に、それぞれ別のメニューの食事をとる「個食」、個別の食事という意味合いです。また、3つ目は同じものばかりに固定した食事の「固食」。あとは、意識的に行っている「小食」です。また、パンや麺、ピザなど粉が主原料のやわらかくて早く飲み込めるような食事、粉の食と書きまして「粉食」、あとスナック菓子など塩分が過剰に入っているような、そういう味の濃いものをとる食事、濃い食と書いて「濃食」、あとは朝昼晩の間に10時のおやつだったり、3時のおやつだったり、中間に入れての五つの食事、「五食」と言うのですけれども、これらの「こしょく」を取り上げていました。今の子供たちというのはバランスが非常に悪いのかなというところも一つありまして、それがどういうところに出るのかわかりませんが、集中力不足などにもかかわってくるのではないかなという一つのテーマでございました。</p> <p>新しいところではそんなところでしたけれども、それについていろいろと討議がされまして、健全で豊かな子供たちが将来大人になって成長していく中で一つの問題としまして、食材の農薬だとか遺伝子組み換えだとか、そういうものによって、人体にどういう影響を及ぼすのかというところも見据えた上で、できるだけ安全なものを食していきたいということになっておりました。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。食の問題の中では、この「個食」というのは非常に重要なところでありまして、先ほどあった、家族みんなと一緒に食べているんだけれども、食べているものがみんなばらばらだということで、実はそういう状況で食事をしてるとみんな食べているものが違うので、話していることが通じなくなるということがよく言われているのです。重要なところでございます。</p> <p>続きまして、幅広い年齢層に向けて地域に根差した活動を続けていってほしいと思います食生活改善推進員協議会の相澤委員、よろしくお願いたします。</p>
相澤委員	<p>食生活改善推進員会の相澤でございます。</p> <p>11ページと12ページをごらんください。</p> <p>最初に、取り組みの方向性の①-A-1ですが、宮城食改さんで毎月19日を食育の日として一般市民を対象にアピールということで、宮城地区の祭りに参加し、地産地消の野菜でカルシウムをたっぷり使ったお好み焼きを販売して、大好評でしたということでもあります。</p> <p>それから、取り組みの方向性の①-C-1でございます。これも宮城食改さんなんですけれども、これは今年度初めての事業でございまして、高校生を対象とした生活習慣病予防のための減塩推進スキルアップ事業ということで、宮城広瀬高校のフードデザインの授業を選択している3年生を対象に「学</p>

	<p>生のための食活ガイド」というテキストを使用して進めました。食を通した健康づくりの実践、朝食の必要性と食事バランス、それと調理実習、1回目が11月1日で28名の参加、2回目が11月7日の30名の参加で、大変好評でしたということでございます。</p> <p>次に、具体的な取り組みの①-D-2に参ります。これは秋保の食改のほうでございますが、食生活改善普及事業として、幼稚園の保護者を対象に肥満予防の講習会を毎年行っておりますが、ことしは1月25日に実施いたしました。簡単で野菜を取り入れた料理を普及し、糖尿病などの生活習慣病予防のための食生活改善を促すための講習会や、計算して自分の適正体重を知りましょうということや、そのほかに調理実習をいたしました。15名の参加をいただきまして、バランスガイドで1日の分量も知ることができ、自分の適正体重も知ることができて大変よかったと好評をいただきました。</p> <p>それから、その下でございますが、「ヘルスマイトが『TUNAGU』パートナーシップ事業」として、宮城地区で随時行っていることでございます。地域と世帯をつないで、減塩と野菜ワンプレートの普及をテーマに料理講習会を実施したり、お隣さん、お向かいさんを訪問し、塩分測定器「減塩くん」を使い、味噌汁の塩分チェックと野菜ワンプレートの普及に努めているということでございます。随時やっているということですので、大変貴重なことと思っております。</p> <p>12ページをごらんください。</p> <p>一番上の食生活改善普及事業の秋保のほうなんですけれども、一般市民を対象とした「よい食生活をすすめるための料理講習会」を行いました。「骨とカルシウムについて」と「食育について」をテーマとした講話をいただきました。そのほかに、実習献立として、今回は和食ではなくてアジアコースという中華風の料理講習会でしたので、参加者は一般市民でしたけれども、みんな大変喜んでくれましたので、大変私たちも満足しました。</p> <p>それから、一番下ですけれども、推進の柱の②の地域の食文化を伝えあおうということで、具体的な取り組みの②-A-3「健康のつどいでの普及啓発」であります。これは秋保地区ですけれども、行政と地域の各団体との共催事業である「健康のつどい」の会場において、郷土料理や地域の食材を紹介するブースなどを設置し、今回は試食として簡単チャーシューとリンゴのカップケーキということで、市民の方々120名ほどでございましたけれども、大変喜んでいただきましたので、また来年も頑張りましょうということでございます。</p> <p>以上でございます。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございます。高校生対象の食事バランスガイドを用いての実習、非常に高校生に対していい影響を与えていたのではないかと思います。ありがとうございます。</p> <p>では、次に医学や栄養の専門性を生かした活動ということでご報告いただきたいと思っております。仙台歯科医師会の柴崎委員、よろしくお願ひします。</p>
柴崎委員	<p>仙台歯科医師会です。</p> <p>仙台歯科医師会の事業としては、大きくは市民全体に向けてのものと、学校の児童・生徒、保育所などのお子さんに対してのもの、あとは来院した患者さんの状況に応じて講話や指導、啓発活動を行っております。</p> <p>内容的にはむし歯に関することが多く、糖質の摂取が中心になるのですけれども、そのほかに歯を溶かす酸として、柑橘類や炭酸飲料などの指導を行</p>

	<p>ったりもしております。よくかむことや飲み込むことも年代を通して大変重要なことですので、食を切り口として、そういった関連も啓発しています。</p> <p>市民全体に向けては、「スマイル」という小冊子を発刊しているのですが、主に歯科医院の窓口などで配布しております。そういったものも機会があったら目を通していただければと思っております。</p> <p>また、6月の歯と口の健康週間の土曜日に歯と口の健康づくりの啓発イベントとして市民のつどいを行っており、仙台市や栄養士会さんなど関係団体とともにブースを設けて活動しており、その他には仙台市のPTAフェスティバルに参加させていただいております。また各区区民まつりにも参加させていただきまして、ブースを設けて啓発活動しています。</p> <p>各学校には歯科校医として出向いておりますので、定期健診時に保健指導や講話などを行っております。</p> <p>あと一つ、「3歳児カリエスフリー85プロジェクト」というのを3年ほど前から仙台市や小児科や大学、保育園関連とともに協力しながら、取り組みをすすめています。これは平成34年に向けて、3歳児のお子さんの85%は虫歯ゼロを目指そうというプロジェクトなんですけれども、これも歯科医院においては、お母さんとお子さんに対して、間食指導を含む乳幼児期からの正しい食習慣の確立への啓発ということを新しく取り組んでいるところです。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。体の健康はお口の健康からというのは、よく言われていることだと思いますね。</p> <p>それでは、次に健康づくりから地産地消まで幅広い活動に取り組んでおられるということで、宮城県生活協同組合連合会の渡辺委員、よろしく願います。</p>
渡辺委員	<p>県生協連、渡辺です。</p> <p>取り組みの中から推進の柱①の、14ページの一番下の「5A DAY食育体験ツアー」、みやぎ生協で行っている取り組みについて報告したいと思います。</p> <p>この「5A DAY」というのは、皆様ご存じかと思うのですが、1日5皿分、350グラム以上の野菜、それから200グラムの果物をとりましょうという健康増進運動でございます。</p> <p>みやぎ生協では、ここにも書かれていますけれども、2005年から「5A DAY食育体験ツアー」を実施しております。学校の授業の一環としてみやぎ生協の各店舗にあるメンバー集会室を教室に、小学校の食育体験授業を行っております。今年度は12月までに仙台市内の小学校15校で開催しております。生協の店舗では39回開催しております。12月まで1,197人の児童の皆さんが参加しております。</p> <p>この「5A DAY食育体験ツアー」は、食育インストラクターという方がいらっしやいまして、この方を中心にお店の中でお買い物ゲームをしたり、それから食品群やこまの図を使って、食品の栄養バランスのとれたお話を聞いたりという、とても楽しいゲーム感覚の体験授業です。この体験授業の最後に、子供たちが実際に自分たちで野菜を洗ったり、それからちぎったりして、サラダをつくって食べるのですが、ピーマンとか食べられなかったお子様が、その場でとてもおいしそうに食べているという姿を私も見させていただいたことが多くありまして、自分たちが体験することによって食材のよさとか、それから栄養のバランスのすばらしさというのを体験できるともいいツアーなので、紹介させていただきます。</p>

	<p>それから、ここに載ってはいないのですけれども、あわせて年齢を拡大しまして、五、六歳児を対象とした体験型食育プログラムとして、「5 A DAYたべるのおはなし教室」というのを今年度開催しております。地域のお子様対象なのですけれども、今後は保育所、それから幼稚園にもご案内して、この「5 A DAY食育体験ツアー」を拡大するというところで報告を受けております。</p> <p>以上でございます。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。子供たちの好き嫌いもなくなるというすばらしい事業だなと思いました。</p> <p>それでは次に、健康で安心・安全な生活について活動されている立場から、菅原委員、よろしく願いいたします。</p>
菅原委員	<p>それでは、18 ページから 19 ページをお開きください。</p> <p>「仙臺農塾」に関しましては、これまでも報告させていただいておりますので、割愛させていただきます。</p> <p>新しい取り組みとしては、19 ページの具体的な取り組み、③-B-1 の 2 番のところに挙げております「オーガニック・ウィーク・センダイ 2017」というものを、実行委員会の一つとして開催しております。</p> <p>参考資料で印刷していただいたこの緑の報告書に、「オーガニック・ウィーク・センダイ 2017」の概要が実施内容のところに書いてあります。何か一つのイベントをするというよりは、オーガニックや有機といった言葉を広めるためのキャンペーンということで、11 月 3 日から 11 月 12 日を「オーガニック・ウィーク・センダイ」と名づけて、さまざまな団体だとか飲食店に呼びかけてキャンペーンを行っていただきました。こちらは 2016 年から始めていまして、2017 年は 2 年目になりますので、実行委員会の中でイベントを開催しようということが決まりまして、今回報告に出させていただいたイベントを実施しました。</p> <p>説明すると長くなってしまいますのでお読み取りいただきたいのですけれども、中身としては、食べ物とはまた違うところも含まれてくるのですけれども、オーガニックコットンのお話だとか、食関係ですとオーガニックの有機の認証をとっている方だけではなくて、それをとろうとしている段階の生産者の方だとか、有機の JAS 認定をとっている加工品などを扱っている方などの交流会だとか、一般の参加者の方と生産者の方が交流できるようなイベントをこちらで開催しております。実行委員会を組織しておりまして、うまく回っていなかった部分が正直ありまして、参加者数が少なかったのが非常に残念ではあるのですけれども、2018 年も大体同じぐらいの時期に「オーガニック・ウィーク・センダイ 2018」という形でキャンペーンを続けていくことになっておりますので、何か皆様からも参加していただきたいですし、ご協力などもいただければと思います。</p> <p>次に、推進の柱④の 2 が、ネオニコチノイド系農薬の危険性を広める紙芝居の上演についてです。</p> <p>ネオニコチノイド系農薬という農薬は、最近日本であまり話が出てきていないのですけれども、欧米などでは危険性だとか環境に対する影響などを考慮して使用の中止などが始まっているものです。こちら、ちょっと難しい内容なんですけれども、わかっただけのように紙芝居を作成しております。ネオニコチノイド系農薬というのはカメムシの防除だとかで米農家がよく使われるのですけれども、ネオニコチノイド系農薬を使わないでお米づくりを</p>

	<p>されている方の生産地へ見学しに行ったついでにこちらの紙芝居を上演したり、イベントなどで延べ100名程度への上演を実施しております。</p> <p>この二つが新しい取り組みになっております。以上です。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。今、ネオニコチノイド系の農薬の話が出てきましたけれども、これによって有益となる蜂が少なくなっている状況だということも問題視されているところがございます。</p> <p>それでは、次に大学での取り組みについてのご報告をお願いしたいと思います。宮城大学の白川委員、よろしく願いいたします。</p>
白川委員	<p>宮城大学の白川でございます。</p> <p>23ページをごらんください。</p> <p>取り組みとしましては例年どおりですが、1番目としまして、不定期で高校に出前授業に行っております。高校生に対して食に興味を持ってもらうために食育の授業をしております。今年度は近くの仙台西高校に参りました。時には、県外まで行くこともあるのですが、今回は近いところで20名の参加でした。</p> <p>2番目としまして、食育の授業を通して、大学生、次世代を担う若い世代の学生に対して、自身の食生活を見直して改善するということを促しております。その活動の一環で、学生とともに食育に関する調査研究も行っております。ここには書いておりませんが、その成果を食育学会等で発表して、食育に関する意見交換や交流を行っております。</p> <p>また、3番目としまして、一般市民に向けた食育の啓発活動といたしまして、みやぎ生協様の学習会で食育に関する講話をさせていただいております。今年度はアンチエイジングに関するお話で、皆様に非常に興味を持っていただいて、多数のご参加をいただきました。</p> <p>4番目といたしまして、教育の現場で実際に食育を実践している先生方に対して、教員免許状の更新講習としまして、食育の講義をさせていただいて、現場ですぐに役立つような知識や指導例をご紹介します。また、同様に、今年度は栄養教諭の先生方の専門研修ということで、食育に役に立つ、実践に役に立つ情報や指導例のご紹介を説明させていただきました。</p> <p>①-A-5というところで、これは私が関与しているわけではないのですが、本学の森本教授が大学の「@グリーン」というサークルで活動している学生とともに、大学にある農場で栽培した野菜と寄附による食材を利用して、大学の加工棟でパンやスープをつくり、無料で朝御飯を月に1回程度提供する取り組みを行っております。当初は仮設住宅にお住まいだった方々の食品加工の取り組みの際にお手伝い、サポートをいただいておりますが、最近は学生だけで自主的に活動ができるようになってきて、最近は同窓会の援助などもいただきながら活動しております。朝食の欠食改善に非常に役に立っているかと思っております。以上でございます。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。何しろ朝食抜きという若者が多い現状の中で、こういった活動をしていただいて、そして自主的にできるようになったということで、いい事業だなと思えました。</p> <p>それでは、私のほうからも二、三お話し申し上げたいと思います。22ページになります。</p> <p>昨年6月に本学の女子大生を対象に食育講座を行ったわけですが、その内容といたしましては、非常時の食ということで、非常時に役立つものは何か</p>

という、やはり長期保存が可能な乾物です。でも、乾物ってなかなか使わないので、どうやったら乾物がうまく使えるのかというところを講座の中に入れてさせていただき、こういったものを備蓄していくといいですよということをお話ししながら実施させていただきました。

二つ目といたしましては、みやぎ県民大学講座として、「骨はからだの母親 一骨を元気にするためにー」ということで4回シリーズでさせていただきました。そのうちの1回を私が担当させていただいたわけなのですが、いわゆる骨粗鬆症にならないためには、骨を丈夫にするためには、となるとカルシウムということになるわけなのですが、骨というのはミネラルだけでできているわけではなくて、半分がミネラルで半分がタンパク質ということなので、カルシウムだけではない。要するに、カルシウムのほかにマグネシウムやリンと同時に、そのカルシウムの吸収を高めるためにはビタミンDが必要だし、そして骨を形成させるためにはビタミンKが必要だし、そしてその骨を形成しているタンパク質を形成するためには、ビタミンCが大事だしということで、そういった重要な栄養素を含んでいる食材を使い実習を行いました。

内容的には、イワシの蒲焼丼、そして呉汁、小松菜と夏野菜のサラダ、ワカメのおひたし、切り干し大根の漬物、そしてデザートにカスタードプリンを作りました。プリンは大体牛乳を使うのですが、今回はスキムミルクを使用しました。というのは、牛乳よりもスキムミルクを使ったほうが、カルシウムが2倍、3倍ぐらいとれるということで、こちらで献立を立てて実習をしまして、この1食分でカルシウム量が計算上387ミリグラム摂取となりました。1日のカルシウム摂取の推奨量としては600から700ミリグラムなわけなので、この1食分だけで半分以上はとれるのですよというような献立の実習をさせていただきました。そんなに難しい内容のものではないですし、日ごろの食材の中に何の栄養素が含まれているのかということを知っていれば、献立を立てやすいのかなと思います。小さいのですが写真のコピーをまいりましたので回させていただきます。

それから、ここで少し宣伝をさせていただきたいと思いますが、皆様のお手元に、「うかたま」のチラシをお配りしました。16巻シリーズで、第2巻が最近発行されたばかりでございます。これには二、三年前に宮城県のそれぞれの地域に出向きまして聞き取り調査をさせていただいた内容が載っています。その地域の家庭でどのようなものが食べられているのかということの調査をさせていただき、それを実際にその地域の方たちにつかっていただいて、そのレシピを起こさせていただき、それに見合った特徴をこちらのほうで文章として作成させていただいたということで本になりました。1冊ずつ購入することも可能ですし、16冊まとめて購入すると、まとめてお支払いいただいて、発刊されるごとに発送されるということになります。こういった本も郷土料理を広めていくのに参考になるかなと思います。

今回、「肉・豆腐・麩のおかず」というテーマでしたが、宮城県だけではなく、全国地域で調査されたものを項目ごとにまとめております。今回こちらの中には登米地域で食べられている茶碗蒸し、それからイナゴの佃煮が紹介されています。最近イナゴの佃煮ってあまり食べられていないわけですが、農薬をがんにかけられて、イナゴがなかなかとれないという状況になってきていまして、実はイナゴの佃煮というと、外国のアメリカのイナゴが材料となって道の駅で売られているというのが現実であります。ただ、今後こういった昆虫食というのも伝えていかなければいけないのかなということで、イナゴの佃煮も載せさせていただいております。

	<p>続きまして、仙台市の取り組みについてご報告をお願いしたいと思います。まず、子供未来局からお願いいたします。</p>
子供未来局長	<p>子供未来局の福田でございます。 資料は 25 ページからになります。 25 ページから、市民の方々へのいろいろな情報発信ですとか、啓発の取り組みが書いてありますけれども、1 枚めくっていただきまして 26 ページの真ん中の網かけのところ、妊産婦や乳幼児の食事に関してですが、こちらについては各区の保健福祉センターや総合支所の栄養士あるいは保健師などの専門職が母子健康手帳交付の際の説明会ですとか、育児教室あるいは離乳食教室、幼児健診とか、さまざまな機会を捉えて妊産婦や乳幼児の健康的な食生活についての啓発ですとか、個別の相談にも応じております。 次に、28 ページの②-A-1 に保育所給食における食文化の継承とあります。先ほど保育所連合会の原田委員からもご紹介がありましたけれども、日本の伝統的な食文化である和食のよさを伝えるといった取り組みに呼応する形で、各保育所の給食におきましても和食を中心とした伝統食の提供ですとか、保護者の方々への啓発を意識をして行っているというところなんです。 あわせて、次のページにありますような地場製品の活用など、こういった取り組みもすすめているところでございます。以上です。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございます。 それでは、続きまして経済局、よろしくお願いいたします。</p>
農林部長	<p>経済局、農林部の横山でございます。 経済局の取り組みは、資料でいいますと 31 ページから 33 ページにかけて掲載しております。経済局は、食にかかわる部署として農林部と中央卸売市場がございまして、それぞれ例えば農産物の生産振興ですとか、それから地場製品の活用促進、食材そのものの PR、それから生産者、流通事業者、消費者、それぞれの相互理解の促進などを通じて食育にかかわっているところでございます。 それでは、31 ページから説明してまいります。 最初に、③-A-1、学校給食連携事業でございます。教育委員会と連携いたしまして、平成 27 年度から取り組んでおりますけれども、特徴のある仙台産農産物の中から、各学校ですとか給食センターごとに食材を選んでいただきまして、給食の献立に取り入れているというものでございます。学校給食を通して、子供たちが地元農産物や地産地消について学び、仙台産農産物の認知度向上ですとか、消費の拡大につながることを目的としているものでございます。 このうち、昨年度、平成 28 年度から新たに取り組んでいるものとしまして、食材として使用する野菜のほとんど全てを仙台産で賄う「まるっと仙台産農産物の日」というのを新たに始めているのですけれども、初年度、平成 28 年度は 10 校でやっていましたが、今年度、平成 29 年度は 29 校まで実施校を拡大していただきました。子供たちにアンケートをとりましたところ、「地元でとれた野菜がよくわかって楽しかった」「家でも地元の野菜が食べたくなった」といった感想をいただきまして、さすが子供たちも大人が求める回答がわかっているなと思ったところでございます。 次に、下のほうにいきまして、同じ 31 ページ、③-B でございますけれども、地場産の食材や地産地消について知る機会をつくり広く情報を発信しま</p>

	<p>すという事業でございます。「せんだい産農産物表示マーク（愛称ここでちゃん）」の普及というものをやっております。ここでちゃんマークというものをつくりまして、済みません、きょう資料を持ってこなかったのですが、商標登録もちゃんとしているマークなのですが、一般消費者の方にはいま一つ浸透していないかという反省もございますけれども、これの普及を図っているところでございます。</p> <p>それから、先ほどちょっとお話が出ました地産地消推進サポーター事業ですが、サポーターを募集いたしまして、登録いただいた方には、農作業体験などを通じて地場産品に触れ合う機会をつくっております。</p> <p>同じ31ページ、3番でございますけれども、これは中央卸売市場でやっていることですが、NHKのテレビ番組「ひるはび」という番組がお昼近くにやっておりますが、その中で毎週金曜日に市場からのコーナーを設けていただきまして、「目利きのイチバン」と銘打ったコーナーですが、そこで旬の食材ですとか、その調理方法の紹介をしているところでございます。</p> <p>それから、これは毎年行っておりますけれども、小学校ですとか、一般市民の方が市場見学にいらっしゃるものの受け入れもやっておりますし、夏休み期間に親子市場見学会というものを実施しております。</p> <p>それから、33ページに飛びますけれども、4番、5番になりますが、これも中央卸売市場でやっている事業でして、保育所ですとか中学校などでサンマ焼き体験、サンマ料理教室なども開催しております。また、市場で働く方が小学校に出向きまして、農産物の生産、流通現場のことを子供たちにお話しして、食の大切さを伝えるといった出前事業も行っているところでございます。</p> <p>経済局の事業としては、概要、以上でございます。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。地元の食材を子供たちが食べると、子供たちは地元が好きになるんだそうですね。ですから、ぜひ継続的に続けていただきたいと思います。</p> <p>それでは、教育局、よろしく願いいたします。</p>
教育局	<p>それでは、教育局における事業でございますが、資料の34ページから37ページに記載してございます。このうち2件をご紹介します。</p> <p>一つ目は、34ページの一番初め、①-A-1、学校給食フェアでございます。先ほど熊谷委員からございましたけれども、給食週間の絡みのものでございます。文部科学省では、学校給食の意義、役割等について理解、関心を深めるため、毎年1月24日から30日までを全国学校給食週間と定めまして、児童生徒や保護者はもちろん、広く国民を対象とした取り組みを進めることとされております。</p> <p>本市でもこれに合わせまして、ことしは1月22日から1月26日までの5日間、学校給食フェアを開催いたしました。この学校給食フェアでは、市役所本庁舎の地下食堂におきまして、実際の学校給食の献立をもとにしたメニューを提供いたしますとともに、1階にギャラリーホールがございますが、そちらで学校給食に関する資料展示を行ったところでございます。</p> <p>食堂で提供したメニューにつきましては、今年度は「給食で学ぶ全国の郷土料理」をテーマに、伝統的な食文化への理解を深めるということを目的に、各学校で作成した全国の郷土料理を取り入れた給食献立を再現いたしまして、1日限定60食の提供でしたけれども、ご好評いただきまして、毎日</p>

	<p>お昼過ぎには完売という状況でございました。</p> <p>また、ギャラリーホールでは、本市の学校給食の歩みや昭和 30 年以降の各年代の給食献立のフードサンプル、また各学校や給食センターで使用している食育教材などを展示いたしました。先ほど経済局からお話がありました、J A 仙台と連携して行っております仙台産野菜を使用した給食の取り組みについての紹介もあわせて行ったところでございます。</p> <p>二つ目は、資料 35 ページの最後になりますけれども、①-B-9、親子食育講座でございます。これは、小学生とその保護者を対象としたものでございます。社会学級や P T A の皆様のご協力を得て実施しておりますけれども、例年地産地消や朝食づくりをテーマとして、調理実習や講話など各団体においてさまざまな内容を取り上げておまして、参加者からは家庭で食について考えるいい機会となったというような声を多く寄せられているところでございます。今年度は 1 月末までの期間で、46 校で実施という予定で行ってございましたけれども、現在実施状況について取りまとめをしているところでございますので、資料にはまだ件数は入れてございませんでした。</p> <p>教育局に関しては以上でございます。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、最後に健康福祉局、よろしく願いいたします。</p>
健康福祉局長	<p>私からは、健康福祉局の取り組み 2 件と、それから環境局の取り組みもあわせて紹介したいと思います。</p> <p>まず、健康福祉局の取り組みでございますが、42 ページをごらんください。</p> <p>42 ページの真ん中から下の 11 番、訪問栄養指導事業でございます。この事業は、各区保健福祉センターで実施しております、職員や訪問栄養相談員として市長から委嘱された栄養士が市民のお宅を訪問して食生活の相談に応じるというものでございます。その方の生活状況、あるいはその家族の構成など、さまざま考慮しながらアドバイスをしているところでございます。相談内容としましては、離乳食の相談がほとんどを占めておまして、先ほど子供未来局からお話がありました、母親教室というものを妊婦の時期に実施しているのですけれども、子供が生まれていざ必要となったときに、改めて作り方がわからないですとか、やり方がこれでいいか見てほしいとか、なかなかお子さんが食べてくれないとか、やはり核家族の世帯が多いので、おばあちゃんとか、お母さんからアドバイスいただけないという保護者、お母さん方が多いなという印象でございます。</p> <p>これを利用していただいた方からは、ゆっくりと話ができてよかった、そういう機会があってよかった、自分がわからないことを細かなところまで教えてもらった、先々の見通しが立つようになったなど、日ごろの悩みを解決できた大変いいお声を寄せていただいているところでございます。</p> <p>また、こういった機会を通して、お子さんの離乳食だけではなくて、家族全体の食生活についてもアドバイスをいただいて、その後の食事づくりですとか、栄養バランスですとか、そういったところに気配りができるようになったというお声もいただいております。</p> <p>もう一つでございますが、50 ページをごらんください。4 番目になります。食品の安全性に関する講演会の開催でございます、食品安全のリスクコミュニケーションの取り組みとしまして、市民を対象とした講演会を 1 月に開催しました。資料ではまだ予定となっておりますが、140 名の方に参加いただいたところです。今回は、家庭での食中毒予防をテーマに、講師の先生か</p>

	<p>らわかりやすくお話をいただきました。参加者の方々からは、家庭での食中毒について考えるいい機会だったとか、消費者一人一人が食中毒の知識を持つことが大切だといった感想をいただいております。</p> <p>食品の安全性確保対策を効果的に実施するためには、事業者、私ども行政、そして消費者の方が相互に理解し、それぞれの責務や役割を果たしていくことが重要でございますので、今後もこういった市民向けの講演会を開催してまいりたいと思います。</p> <p>続きまして、環境局の取り組みについてご紹介いたします。</p> <p>30ページをごらんください。今回、改定いたします後期計画におきましても食品ロスですとか、そういったことが大変重要となってきておりますけれども、環境局の今年度の事業としましては、1番目にありますフードバンク・フードドライブの取り組みがございます。</p> <p>昨年9月3日にエコフェスタ2017を開催いたしまして、市民の皆様へ食品の寄贈を呼びかけたところ、衣装ケース三つ分、合計107キログラムも食品が集まり、フードバンク実施団体に寄附いたしました。もう一つ、先月26日にはせんだいメディアテークで、資源を大切にしようというイベントである「資源ナーレ」を開催しました。この場でも賞味期限が1カ月以上ある、例えば缶詰とか、そういった食品を持ってきていただきまして、このときは合計26キログラムの食品が集まりまして、これもフードバンク実施団体のほうに寄附したところです。</p> <p>その下2番の「モッタイナイキッチン」、これにつきましては前回この会議でご紹介させていただいたところですが、昨年9月から開設されたウェブサイトでございます、市民の皆さんからのレシピの投稿ですとか、食に関する情報提供などを掲載しております。9月からスタートして、12月末現在で参加者数7,154名、アクセス数1万2,357件で、市民の方に投稿していただいた登録レシピの数は100件といった成果が上がっております。</p> <p>健康福祉局からは以上でございます。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。非常に幅広い内容での事業でございました。皆様、それぞれの主体の特徴を生かしながら活動されていたということが十分に感じられました。</p> <p>市民公募委員の亀山委員、齋藤委員から、これまでの取り組みを聞かれてのご感想をお聞きしたいと思います。</p> <p>亀山委員からよろしく申し上げます。</p>
亀山委員	<p>毎回会議のほうでご意見を聞かせていただいて、すごく多くの活動をしているのだなと毎回ちょっと感動しております。</p> <p>きょう資料を見てきてすごく思ったのが、やはりMELONさんのところがすごくおもしろいというか、正しいことを楽しく伝える感じがあるなと思って、さまざまな団体と連携しながらやっていくというのは、すごくいいことだなと思いました。</p> <p>それから、24ページの広報誌の「ゆたかなくらし」にすごく興味を持ったのですけれども、これはどこに行けば読めるものなのかなと1点思ったのと、宮城大学の大学生が高校生に対して食育をするというのがすごくいいなと思ひまして、年が近い間で教え合うということがいい試みだなと思いました。さらに、教わった高校生は、例えばまた小学生というような形で教えていくような仕組みがあったらいいなとか、あとはほかでも言えるのですけれども、この食育を受けた人たちがアウトプットできるような引っかけみたいなもの</p>

	<p>を必ず最後につけてあげるといいのか。例えばきょう受けたことの感想は皆さん聞いていらっしゃると思うのですけれども、ではそれをお兄ちゃん、お姉ちゃんにはどうやって伝えるのかとか、主婦が来ているのだったら、きょう聞いた話を3人には話してみてくださいみたいなことをすると、そこがもう食育サポーターになっていくのかなという気がしました。来れる人ってやっぱり30人とか、100人とか限られてしまうので、きょう来たあなたがさらに2人、3人に伝えてくださいというようなアウトプットするような仕組みもつけていくと、やったのは100人だけじゃなくて、300人、400人と広がっていくのかなという気がしました。以上です。ありがとうございました。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。 それでは、齋藤委員、よろしくお願いいいたします。</p>
齋藤委員	<p>本当に皆様方、大変御苦労されているということが伝わってきました、昨年度と比べて全般的に実施の内容に深まりと広まりというのが感じられて、取り組みの方向性によりフィットした内容になっているのではないかなと感じさせていただきました。</p> <p>ですから、今後はいろいろな機会を捉まえて、市民としていかにこういうものに参加していくかということが問われているのかなという感じがいたしまして、今後はやっぱり、先ほど亀山委員もおっしゃいましたけれども、いただいた情報を皆さんに広めていくとか、それから経験したものを家族なり知人に広めていくということが必要なのかなと思いました。</p> <p>私、NHKの番組のモニターをさせていただいている関係で、2月3日にEテレで放送されました「くうねるあそぶ」という番組を視聴させていただいたのですけれども、その中で東京都足立区の小学校の学校給食の取り組みが紹介されていました。地道にメニューを変更するであるとか、食べる時間を工夫していく、それから子供たちと取り組みをしていくということで、学校給食のただ1食でも何か違うかもしれないということで取り組みを進めていって、10年間データをとったんだそうですけれども、子供たちの生活態度とか、学習能力の面が10年間の統計の中ですごく向上してきていて、情緒が安定するとか、それから学級運営が大変しやすくなるということで、とても効果が上がったと報告されていたものですから、やはり食育というのは一朝一夕に効果のあらわれるものではないけれども、人の心と体を確実に望ましい方向に導くような力があるんだなと、この番組を見させていただいて実感したところでもあります。</p> <p>ですので、仙台市の関係者の皆様方の真摯な取り組みというのは、市民一人一人の意識を変えて、食育を通しての健康づくりというものに力を発揮していくのではないかと実感したところでございます。今後ともどうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。本日は本当にありがとうございます。以上です。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>亀山委員と齋藤委員からお話をいただき、一つの食育をしたときに、1人からさらに広がり、そしてその食情報がどんどん発信されていく。重要な部分でもありますし、それから食というのは心と体に非常に影響を与えるということですから、私たちの役目というのは非常に重要だなということを感じました。ありがとうございました。</p> <p>時間も押してきましたけれども、皆様方の中から事業実施状況ですとか、ご意見等もしございましたら、お願ひしたいと思ひます。</p>

消費生活センター所長	<p>市民局消費生活センターの櫻井と申します。</p> <p>先ほど亀山委員のほうから、「ゆたかなくらし」の配付場所というお話がありました。消費生活センターでは市民向けの広報誌としまして「ゆたかなくらし」を年4回ほど発行しております。中身といたしましては、消費者トラブルなど契約トラブルなんかは主にはなっておりますけれども、各月の特集の中では、こういった食育に関しての内容を盛り込んだりしております。配付先は、本庁舎あるいは区役所、あるいは各地域の市民センターに配付しておりますので、そちらのほうでお受け取りができるということでございます。以上でございます。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>そのほか、皆様からご意見、ご質問等ございますでしょうか。</p> <p>今年度の事業はまだ3月まで継続するものもあろうかと思えます。また、来年度は後期計画がスタートする年ともなりますので、来年度以降は後期計画に沿ってお互いに活動を進めてまいりたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p><b>議題（3）その他</b></p> <p>それでは、議事の（3）その他に移ります。皆様から何かございますでしょうか。</p> <p>ないようでございますので、事務局よりお願いいたします。</p>
健康政策課長	<p>それでは、事務局から3点ほどでございます。</p> <p>まず一つは、今回のこの後期計画の策定でございますが、この後速やかに高澤会長と最終的な調整をさせていただきまして、年度内に策定となる予定でございます。また、5月中旬ごろまでには冊子として皆様のお手元にお送りする予定となっております。</p> <p>2点目ですが、次期食育推進会議委員の改選についてでございます。現在の皆様の任期はことし6月8日までとなっております。次回の食育推進会議は6月末から7月上旬の日程を今のところ予定しておりますことから、この委員の皆様での会議は今回が最後となる予定でございます。これまで2年間で5回の会議ということで、そしてことしは特に後期計画の策定ということで大変お世話になりました。ありがとうございます。次期の委員の推薦などにつきましては、別途ご連絡いたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>三つ目でございますが、平成29年度食育推進事業取り組み事例集の作成についてでございます。昨年10月にこちら作成についてのお願いの文書をお送りしてございまして、既にお送りいただいたところもございますが、再度、事例について引き続きご提供をお願いできればということでご連絡です。最終締め切りは2月28日でございますが、もしそれ以降に実施する事業があるということでご提供いただく場合には、健康政策課の浅野までご連絡いただきますようお願いいたします。また、様式のデータをご希望の場合も浅野までお知らせください。どうぞよろしく申し上げます。以上です。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ほかにございますでしょうか。ないようでございますので、以上で議事を終了させていただきます。</p>

	<p>先ほど小林課長よりお話がありましたように、今年度は後期計画の策定ということで2年間にわたり5回の会議となりまして、委員の皆様には大変お忙しい中、3回にわたりましてお集まりいただき、まことにありがとうございました。</p> <p>今後、最終案につきましては、事務局とともに進めていきたいと思ひます。改めまして皆様にお礼を申し上げます。まことにありがとうございました。</p> <p>では、事務局に進行を引き継ぎたいと思ひます。</p>
司会	<p>&lt; 3. 閉会 &gt;</p> <p>それでは、以上をもちまして平成 29 年度第 3 回仙台市食育推進会議を閉会いたします。ありがとうございました。</p> <p>—了—</p>

平成 30 年      月      日

署名委員